

演題: 歯牙形態学の実際

Dental Labor GmbH Gross

高瀬 直

歯科技工士にとって歯型彫刻とは全ての基板となるトレーニングであり、全ての歯科技工士が学生時代に積極的に取り組んできた。

ところが国家資格取得後の歯型彫刻の機会は臨床経験年数と反比例する傾向にあり、技工学校卒業以後、一度も歯型彫刻をしていないという歯科技工士も多く見られる。

加えて「歯型彫刻は学生向けのトレーニングであり、臨床の現場においてはもはや必要が無い」といった誤解もこれに拍車をかけている。

しかしながら、歯型彫刻とはさながらアスリートにとっての筋肉トレーニングに等しいものであり、国家試験合格の為の通過儀礼などでは決して無い。

数日、あるいは数週間練習した程度では直ちに臨床技工に直結せずとも、永続的な修練の果てに得られる臨床技工力は想像を遥かに凌駕するものがある。

解剖学的な歯牙の形態が歯周組織を守り、咬合を安定させ、顎関節を正常に機能させることが既知の事実であるならば、歯型彫刻の訓練は直接的に患者の健康に寄与すると言って過言ではない。

そこで今回は歯型彫刻の意義と重要性だけでなく、その練習法や臨床応用に焦点を当て、実際の臨床例を交えて話をしたいと思う。

当講習会が臨床に取り組む全ての歯科技工士にとって一助となれば幸いである。

以上